

第5回グリーンインフラ懇談会 での主なご意見と対応方針

国土交通省 総合政策局 環境政策課

項目	意見	対応
全般	全体的に土地利用についての記載が少ない。地域全体の将来を見据えた戦略的な土地利用計画の作成が重要ではないか。	【はじめに】において土地基本方針について追記するとともに、第2章の主な留意点に「ランドスケープアプローチ」を追加しました。 また、具体施策として、第4章(3)に緑の基本計画、第5章の5に土地の有効利用の項目を追加しました。 (本文P.3,18, 25, 33)
	都市についてはしっかりと語られているが、地方や地域が目線から見ると自分たちがどのような役割を果たせばよいのかが明快に記載されていない。地方や地域がどのような役割を果たすのか配慮した方が良いのではないか。	第2章の【主な留意点】に「既存の自然の再評価・利活用」を追記し、既存の自然を自然資本として捉え、その効果を最大限活用するための方策を検討すべきことを示すとともに、同章の【主な特徴】の「地域性」の箇所に「地方においては自然を自然資本と捉え、地域活性化等につなげるための取組が重要」であることを記載しました。(本文P.16,18)
	経済界では、いかにリスクマネジメントをしたビジネスを構築できるのかということが非常に関心の高い点である。また、WHOのワンヘルスという言葉でも示されているように、自然と人との距離をどのようにコントロールすべきかという議論もある。	「◆各主体の役割」のくまちづくり事業者等(民間事業者)の箇所に「リスクマネジメントの視点からも参画が期待される。」ことを記載し、第1章の1にワンヘルスに関する記載をしました。(本文P.6,8)
	世界的に使用されている「自然資本」という言葉を本文中に記載した方が良いのではないか。	第2章の【主な特徴】及び【主な留意点】において、既存の自然を自然資本として捉えることの重要性を追記しました。(本文P.16,18)
はじめに	国、自治体、まちづくり事業者や産官学金労言の多様な主体が事業推進を図ることを期待すると記載されているが、地域コミュニティや国民という言葉が出てきていない。	【はじめに】の最後の段落に、地域コミュニティ及び国民を追記しました。また、各主体に期待する役割を追記し、グリーンインフラの実装にあたっては、市民団体や国民の取組が重要となることを明確化しました。(本文P.4,6,7)

項目		意見	対応
第2章 グリーンインフラの定義・基本的な考え方	【定義】 (1)用語解説	「社会資本」について、一般的にはソーシャル・キャピタルと捉えられる可能性があるため留意が必要。	定義の英訳において、社会資本を「physical asset」とすることにより、ソーシャル・キャピタルではなくハードの意味で捉えられるよう明確化を行いました。(本文P.13)
		「社会資本」の位置付けをもう少し説明できるようにしておいた方が良い。国交省の戦略であるためハードの意味では捉えられると思うが、グリーンインフラの場合はもう少し広く捉える必要がある。	定義の英訳において、社会資本を「physical asset」とすることにより、ソーシャル・キャピタルではなくハードの意味で捉えられるよう明確化を行うとともに、推進戦略本文で、社会資本を含めた定義の用語解説を丁寧に行う方向性とししました。(本文P.13)
	(2)効果	同じグリーンインフラでも性質が異なる場合があるため、緑の効果を「存在効用」と「利用効用」に分けるなど、効果を整理すると分かりやすくなるのではないかな。	存在効果・利用効果について、コラムとして追記しました。(本文P.15,16)
		機能と効果は一対一で対応しているわけではなく、複数の機能が一つの効果につながっているなど、整理できるのではないかな。	機能と効果の関係は1対1の関係ではなく、1つの機能が複数の効果をもたらす場合もあれば複数の機能の相乗により1つの効果をもたらす場合もある旨追記しました。(P.14)
		グリーンインフラの多様な効果について、グリーンインフラが有する多機能性についての解説があった方が良い。	第2章において、代表的な効果を列挙し、図を追加しました。また、主な特徴として複数の社会課題への対応策であることを記載しています。(P.14,15)
	(3)主な特徴	グリーンインフラの主な特徴のネットワークについて、グリーンインフラそのものがネットワークとしてつながっているという捉え方が重要である。	ご指摘を踏まえ、緑地や河川などの自然がネットワーク化されるという書きぶりに修正しました。(P.16,17)
	2. 実装に向けた主な留意点	適切な空間スケールに基づく統合的マネジメントの推進を入れるべきではないかな。 経団連においても、ランドスケープアプローチという言葉が注目されている。	第2章の実装に向けた主な留意点にランドスケープアプローチの項目を追加し、適切な空間スケールで計画・実施することの重要性を追記しました。(本文P.18)
		社会課題毎に整理されているが、課題間のコンフリクトが生じることがあるのではないかな。そのような課題に対して、プラットフォーム等を通じた支援があると良い。	「はじめに」の各主体の役割及び第2章の留意点において、施策間のコンフリクトが生じないよう連携を図る旨記載しました。(本文P.6,17)

項目		意見	対応
第4章 グリーンインフラの更なる実装に向けた基盤づくり	(2) 多様な効果の見える化	金融業界や経団連においても、土地の本質に注目した評価をすべきではないかという議論が行われている。	不動産におけるグリーンの価値が市場で正確に評価される必要があることを「具体的な取組」の箇所に記載しました。(本文P.24)
		評価手法の検討について、目的や対象によって様々な評価手法があるため、うまく組み合わせることが重要である。また、活用できるものから実装していくという視点も重要であるため、そのような方向性を記載できると良い。	ご指摘の通り、目的や対象によって様々な評価手法があるため、活用場面に応じた整理を行い、活用可能なものから順次実装を図る旨を追記しました。(P.24)
		経済価値の評価や資金調達にあたっての評価において、定量的な数値が出ない部分をどのように扱うのが課題であり、定性的な評価手法の良さを整理した上で、活用していく必要がある。 ナラティブな評価について、現場では非常に効果を発揮している。交通分野では、人に感動やモチベーションを与える、取組を後押しするというような効果が報告されており、ナラティブの効果は非常に大きいため、そのように認識頂きたい。	第4章(2)に定量的な評価とあわせて、ナラティブな評価(定性的な評価)についてもロジックを立てつつグリーンインフラの評価を行っていく旨追記しました。(P.24)
	(3) 官民の取組を促進する環境整備	人材育成の視点が不足しているのではないか。	専門人材が育成される環境づくりを進める旨追記しました。(本文P.24)
		国の事業やガイドラインにおいてグリーンインフラの効果はどう評価しているのかについても求められる情報であり、事業評価におけるグリーンインフラの評価の実装についても、可能な限り検討頂きたい。	第3章(3)に事業評価スキームへの導入可能性を検討する旨追記しました。(P.25)
	(4) 資金調達の円滑化	クレジットの記載があるが、その前に認証についても記載すべきではないか。	第3章(2)多様な効果の見える化の箇所に認証制度も含めて活用場面に応じた整理を行う旨を追記しました。(P.24)
	(6) 国際展開	二次的自然や文化的背景などのアジア特有の事情に適合した国際標準化が必要という点も記載すべきではないか。	今後自然を基盤とした都市を作っていく段階にあるという東南アジアの状況を踏まえ、当該地域を対象とした国際標準化に向けた検討を進める旨追記しました。(P.26)

項目		意見	対応
第5章 社会課題 解決に向けたグリーン インフラの実装	全般	最大のオープンスペースとして、道路をどのように活用していくのかという視点の記載も検討頂きたい。	具体施策として道路緑化の適切な活用等を通じて各種課題に対応する旨を追記しました。(P.28, 29, 30,32)
	2. 防災・減災に資するグリーンインフラ	インフラの老朽化について、グリーンインフラの実装とどうつながっているのか具体的な説明があると良い。	インフラの老朽化に対し、グリーンインフラでどのように貢献できるかについては議論が深まっていない状況であるため、第2章の【主な留意点】に今後積極的に検討する旨追記しました。(P.18)
		緑や植物の働きによって防災・減災が達成されるという視点を明確にすべきであり、単にオープンスペースを作ったらグリーンインフラということではない。	オープンスペースを確保するだけでなく、防災機能を持たせることが重要であることを追記しました。(P.29)
		雨水の貯留・浸透の記載があるが、土砂災害の防止もグリーンインフラに関連するため記載した方が良いのではないか。	ご指摘を踏まえ、「土砂災害」の項目を追加しました。(P.30)
		津波についても含めるべきではないか。また、被災地における水や食料の一時的な供給も災害対応に役立つ機能であるため、期待すべきではないか。	ご指摘を踏まえ、項目を「津波・高潮」に修正するとともに、付録として防災協力農地を追記しました。(P.29)
	3. 暑熱対策に資するグリーンインフラ	緑陰施設という記載があるが、スポット的な施設だけでなく、緑陰がネットワークとしてつながる街路樹等のような考え方はないのか。	具体施策として、「道路緑化(街路樹等)の適切な活用等により街路を軸とした緑陰の連続性の向上を図る」を追記しました。(P.30)
		グリーンインフラには蒸発散による雨水の流出抑制効果もある。	グリーンインフラの実装によって、蒸発散作用を促進することを記載しました。(P.30)
	4. 生物多様性の確保に資するグリーンインフラ	「ブルーインフラ」という言葉が出てくるが、一般的な定義では河川や水路などの地表水、海洋なども含まれる。港湾関係のインフラに限定して捉えているように見えるため、そうであれば用語解説等での補足が必要である。	本文中においては、「ブルーインフラ」という言葉を港湾関係のインフラに限定して捉えているため、本文中にカッコ書きで定義を追記しました。(本文P.33)